

兵庫県立大学第1期中期計画
業務実績に関する評価報告書
【概要版】

平成19年3月

兵庫県立大学評価委員会

評価の方法

中期計画に掲げられた 193 の小項目ごとに、自己評価や計画設定の妥当性を総合的に検証し、計画の実施状況について、下記の 4 段階による評価を行った。

小項目評価 (193項目)

区分	達成度	判断の考え方
IV	計画を上回って実施している	達成時期・内容において計画を上回って実施していると判断される場合。
III	計画を順調に実施している	計画のとおり実施中であると判断される場合。
II	計画を十分に実施できていない	取組状況に改善すべきところがあり、計画の達成状況が不十分であると判断される場合。
I	計画を実施していない	計画を実施していない場合。

中期計画の 6 つの大項目ごとに、小項目評価結果を基にしつつ小項目の重要性を総合的に考慮し、下記の 5 段階で評価するとともに、記述により概括した。

大項目評価 (6項目)

区分	達成度	判断の考え方	基準
S	特筆すべき進捗状況	計画を上回って実施されている場合。	委員会が特に認める場合
A	計画どおり	計画どおり実施されている場合。	すべて III・IV
B	おおむね計画どおり	おおむね計画どおり実施されている場合。	III・IVが8割以上
C	やや遅れている	やや遅れている場合。	III・IVが8割未満
D	重大な改善事項あり	特に重大な改善事項がある場合。	委員会が特に認める場合

全体評価

項目別評価（小項目及び大項目）の結果を踏まえ、教育、研究、社会貢献など業務全体にわたる横断的な観点から、県立大学の業務の実績について記述により評価した。

1 小項目評価

中期計画に掲げられた193項目の小項目ごとの評価結果は以下のとおり。

	評価の対象項目数	I 実施していない	II 十分に実施できていない	III 順調に実施している	IV 上回って実施している
I. 先導的・独創的な研究の推進	27	0	4	20	3
		(0%)	(15%)	(74%)	(11%)
II. 創造力と活力を有する人材の育成	63	0	10	48	5
		(0%)	(16%)	(76%)	(8%)
III. 地域社会や国際社会の発展への貢献	32	0	3	27	2
		(0%)	(9%)	(84%)	(6%)
IV. 大学運営における自主性・自律性の確立	53	0	12	41	0
		(0%)	(23%)	(77%)	(0%)
V. 3大学統合によるメリットの発揮と課題の解消	14	0	4	10	0
		(0%)	(29%)	(71%)	(0%)
VI. 大学情報の積極的な公開・提供及び広報の充実	4	0	1	3	0
		(0%)	(25%)	(75%)	(0%)
合 計	193	0	34	149	10
		(0%)	(18%)	(77%)	(5%)

2 大項目評価

(1) 評価結果

大項目	小項目評価結果集計				特筆すべき小項目	評価結果 (※)
	項目数	Ⅲ・Ⅳの数	割合(%)	結果(※)		
I. 先導的・独創的な研究の推進	27	23	85%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ニュースパル」等の研究基盤を活用した研究の高度化 ○ 地域ケア開発研究所の開設 ○ 21世紀 COE プログラムをはじめとした高度な研究の推進 ○ 部局横断的な共同研究の推進 ● 研究者データベースの構築 	A
II. 創造力と活力を有する人材の育成	63	53	84%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域連携教育、インターシップ等の実践・体験型教育の活用 ○ 中高一貫教育の検討 ○ 総合教育センターの運営による全学共通教育の質の向上 ● 卒業生データベースの整備 ● 全学的な就職支援体制の構築 	B
III. 地域社会や国際社会の発展への貢献	32	29	90%	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 産学連携センターによる大学と産業界の交流、研究成果の地域還元 ○ 生涯学習交流センターによる県民の多彩な生涯学習ニーズへの対応 ○ 国際交流センターによる国際交流の推進 ● 遠隔授業システムを活用した生涯学習の推進 	A
IV. 大学運営における自主性・自律性の確立	53	41	77%	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運営協議会への産業界・学界等を代表する有識者の参画 ○ 教員の公募採用 ○ 新規助手などの任期制導入 ● 教員の人事評価システムの検討 ● サバティカル制度の検討 	C
V. 3大学統合によるメリットの発揮と課題の解消	14	10	71%	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他キャンパスの多様な科目を受講できる遠隔授業システムの活用 ○ 研究成果の共有と部局を超えた共同研究の推進 ● 学生自治会の全学的体制づくりへの支援 ● 後援会・同窓会の全学的な合同組織の設立の支援 	C
VI. 大学情報の積極的な公開・提供及び広報の充実	4	3	75%	C	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページ等自主広報媒体によるPR、報道機関の活用による広報 ● 各キャンパスの個性・特徴の明確化 	C

(※) S：特筆すべき進捗状況 A：計画どおり B：おおむね計画どおり C：やや遅れている D：重大な改善事項あり

(2) 評価にあたっての主な意見、指摘等

I. 先導的・独創的な研究の推進

- ・ 21世紀COEプログラムについては、世界最先端の研究を更に進めることが期待されており、引き続き、次期COEプログラムについても申請することが望ましい。
- ・ 職歴・研究内容・論文等を搭載した研究者データベースについては、自己申告をベースとしつつも、申告のルールを作り、登録率が100%となることを強く期待する。

II. 創造力と活力を有する人材の育成

- ・ 学生による授業評価アンケートについて、今後は、アンケート結果を受けて、FD (Faculty Development)をベースに授業内容の着実な改善とそのフォローアップを十分に行うことを期待する。また、カリキュラムの改善への反映はもちろんのこと、学生自身の教科やゼミの選択の機会として活用も期待する。
- ・ 卒業者データベースについては、卒業生の率直な意見を大学の教育・研究活動へ反映させるとともに、大学への協力と支援を得るという観点から必要であり、ネットワークの活用方法、整備手法を含め検討することを期待する。

III. 地域社会や国際社会の発展への期待

- ・ 県立大学が実績を有するのは社会貢献の分野であり、公立大学としての使命を発揮するために、生涯学習・産学連携・国際交流の分野を更に伸ばしていくことが望ましい。
- ・ 生涯学習について、県民の生涯学習に対するニーズは多様化しているので、そのニーズを的確に把握し、県民にとって有益な生涯学習を推進することを期待する。
- ・ 国際交流について、留学生・留学経験者を中核とした学生ネットワークを形成するとともに、積極的に日本人の海外留学を推進することを期待する。

IV. 大学運営における自主性・自律性の確立

- ・ 大学においては教職協働が重要であり、職員の意識改革及び専門性の向上のため、県と協力してSD (Staff Development)にも力を入れることが望まれる。今後は、現行の取組みに加え、大学事務経験のある職員の配置、研修の実施、会議への積極的な参画などにより職員のスキルアップを図り、教員と職員の一層の連携・協働に期待する。
- ・ 法人化については、国立大学法人や公立大学法人の成果や課題を検証するとともに、県立大学の運営実態も踏まえながら、その適否を検討することを期待する。

V. 3大学統合によるメリットの発揮と課題の解消

- ・ 統合の効果については、すぐに効果が現れないものもあるが、適切な資源と学生を含む人材の確保に努め、その効果を県民に対して明らかにするよう期待したい。
- ・ 後援会、同窓会の全学的組織については、各学部の特色や違いを踏まえつつ、引き続き検討することを期待する。

VI. 大学情報の積極的な公開・提供及び広報の充実

- ・ 教育の成果を誇り得る人間性豊かな大学、先導的・独創的な研究を行う個性豊かな大学、世界に開かれ、地域とともに発展する夢豊かな大学を目指す新県立大学の総合的なブランド力を高めるとともに、各キャンパスの歴史と沿革を踏まえた特色の明確化に意を用いることに期待する。

3 全体評価

(1) 評価結果

I. 先導的・独創的な研究の推進	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
II. 創造力と活力を有する人材の育成	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
III. 地域社会や国際社会の発展への貢献	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
IV. 大学運営における自主性・自律性の確立	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
V. 3大学統合によるメリットの発揮と課題の解消	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
VI. 大学情報の積極的な公開・提供及び広報の充実	S 特筆すべき進捗状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり

総合的に
考慮して

「全体としておおむね計画どおり実施している」

(2) 今後への期待

- ① 21世紀にふさわしい県立大学構築の基礎を確立するため、大学運営のあり方を定めた中期計画に基づき、さまざまな業務に意欲的に取り組むなど、積極的な姿勢が見受けられた。
- ② 先導的な研究の推進や、社会貢献への取組みなどは高く評価できるが、老朽化した姫路書写キャンパスについては一定の施設水準の確保が望まれることなど課題も残されている。
- ③ 大学統合の効果については、既に効果が発揮されつつあるものも見受けられるが、その効果が現れるのにはなお時間を要するものもあり、今後とも必要な資源と学生を含む人材確保に努め、第2期中期計画における取組みに期待したい。